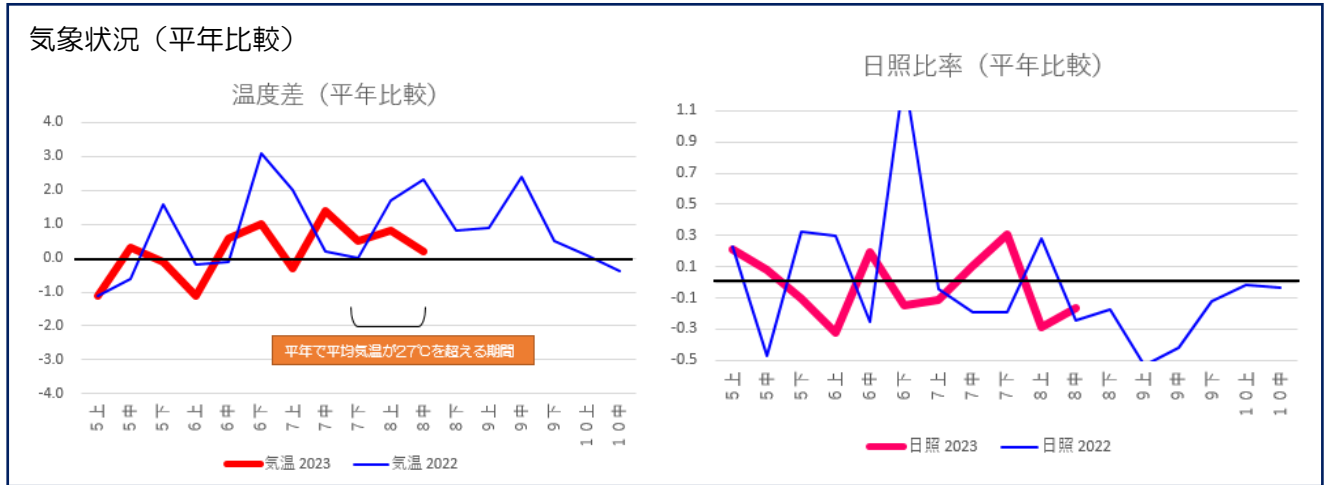


ひめの凜栽培技術情報

1 気象情報について



コメント

気温は、平年より8月上旬は0.8℃高く、8月中旬は0.2℃高く推移している。
日照は、平年より8月上旬は3割少なく、8月中旬は2割程度少なく推移している。
※気温が平年よりやや高く、日照が少ない状況であるので注意。

2 栽培管理について

生育状況

- 5月下旬田植は、出穂～開花期となっている。
- 6月上・中旬田植は、下旬には出穂するものと予想される。茎数は落ち着いたがやや多い傾向。

適正な水管理

- 高温が予想される時は、日中かけ流しや夜間入水を可能な限り実施する。
- 出穂～開花期は、水が一番必要とされる時期なので、できるだけ水深を確保する。
- 湛水状態は、根痛みを生じさせるので、差し水を行うなど細やかな灌水を心がける。
- 水の確保が困難な場合には浅水とし、出穂後20日間は足跡水以上乾かさない。
※登熟期に水が不足すると白未熟粒や胴割粒の発生や籾の充実不足が助長されるため注意。
- 台風などによる強風が予想される場合は深水湛水とし、通過後は直ちに一旦落水する。

落水の目安

- 落水は、収穫作業に支障がない限りできるだけ遅らせ（収穫の5日前）、根や葉の活力を収穫直前まで維持させる。

3 病害虫について

ブラスタム

	8/10	8/11	8/12	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20	8/21
大三島	-	3	-	-	-	3	-	-	3	-	-	-
今治	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-
西条	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
新居浜	-	-	-	-	-	3	2	2	-	-	-	-
四国中央	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

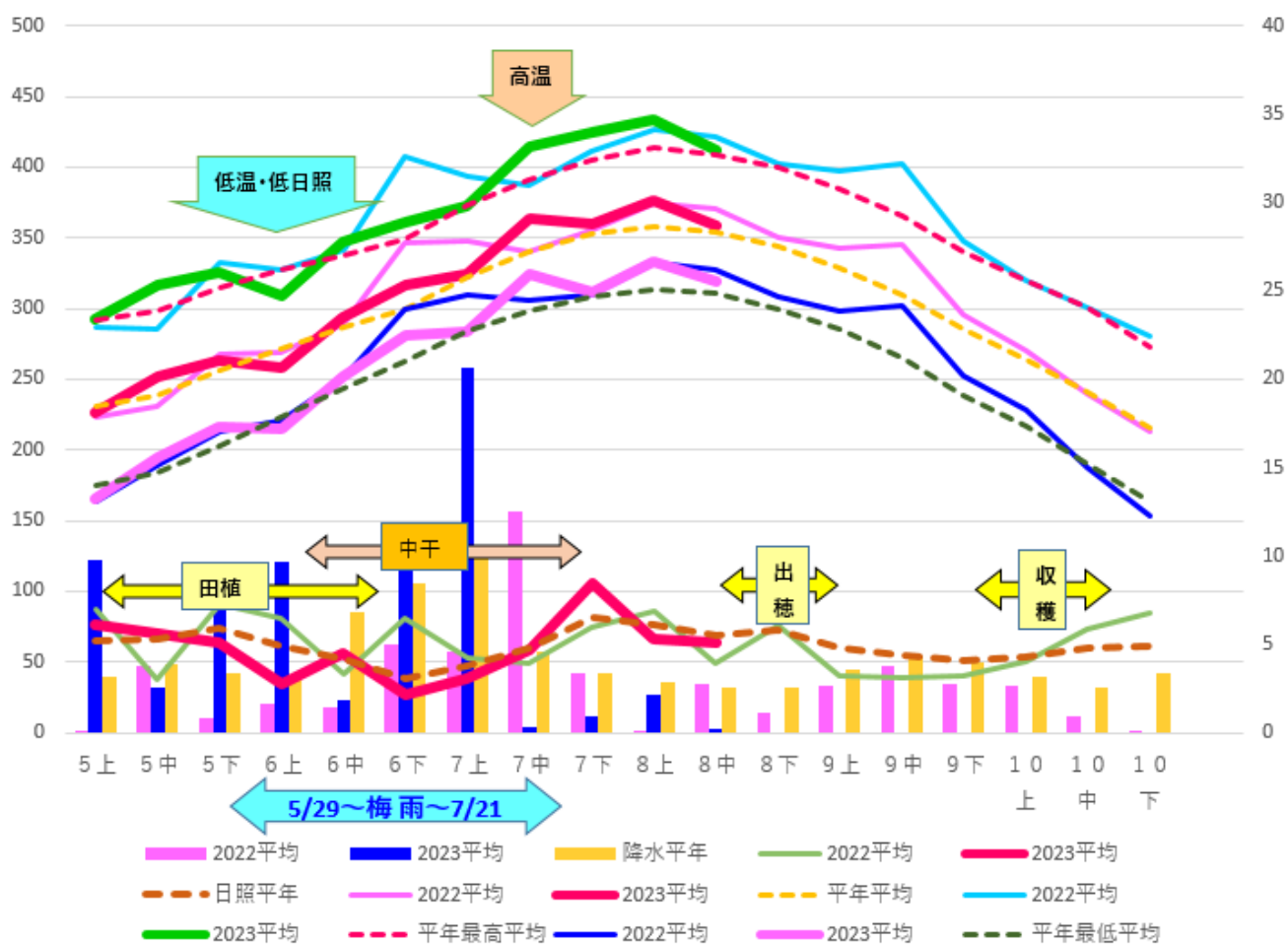
いもち病発生状況

- 東予における、好適感染日は8/11、8/15、8/16、8/17、8/18
- 発生程度は下葉中心（停滞病斑）であるが、出穂期防除は必ず行う。

トビロウソウカ飛来状況

- 佐賀県：6/30（1頭）、7/1（12頭）、3（15頭）、4（4頭）
- 岡山県：7/14～20に連続飛来あり ※愛媛県：7/1（1頭）御荘の予察灯で誘殺あり

気象状況（西条）



高温対策

飽水管理を徹底するとともに地域の用水の供給状況に応じ、適切に水管理（かけ流し・湛水など）を実施できるように準備を進めておく。

フェーン現象対策 【参考】

フェーン現象に備えて、深水管理に！（5cm以上）

※急激な高温により脱水状態になり、白穂や胴割粒を助長。
 ※深水は水分補給だけでなく風揺れを低減。

○ 出穂期前後は最も水を必要とする時期。

→ 出穂時に土壤水分が維持されるよう水管理を徹底。

★ フェーン情報や台風情報等に注意し、湛水できるよう準備。

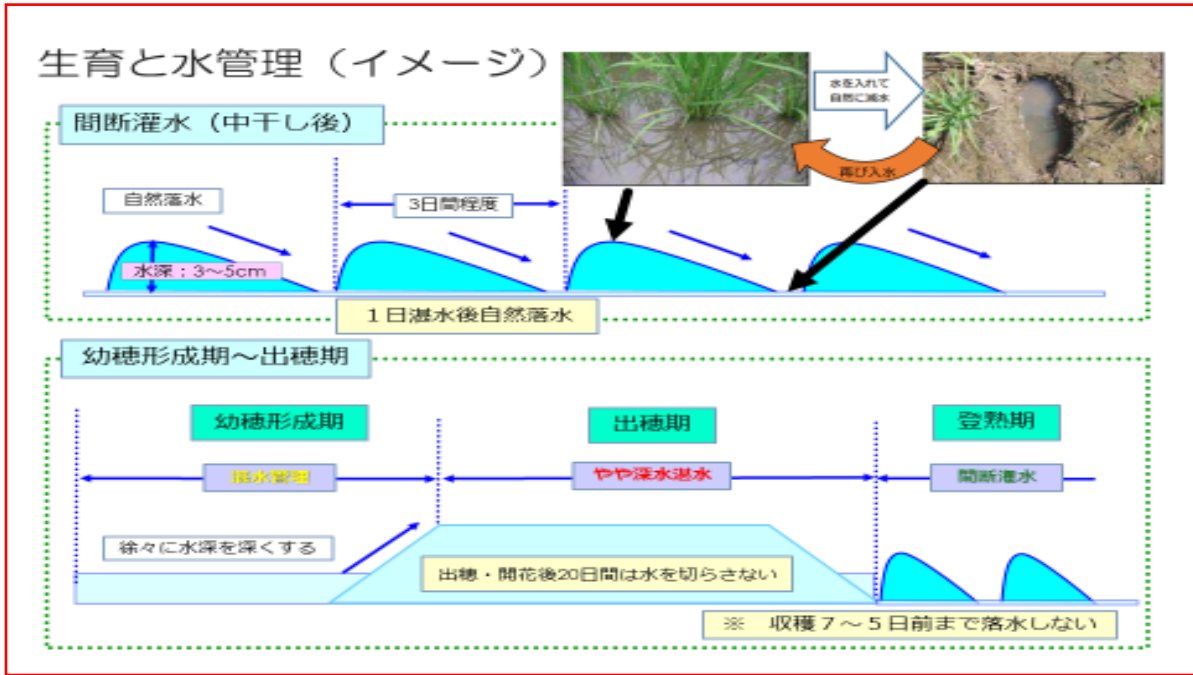
※ 出穂期 30日後までは飽水管理を徹底。

→ 可能な限り遅くまで土壤水分を保持のこと。

× 常時湛水や表面の土が白く乾くまで干さない。

★ 台風情報等に注意し、強風・フェーン現象等による高温・乾燥が予想される場合には、品質と収量の低下（白穂、白未熟粒、胴割れ）を軽減するため、早めの湛水に努めること。

★ フェーン現象や強風の日には終日深水管理とし、収まったら直ちに落水。

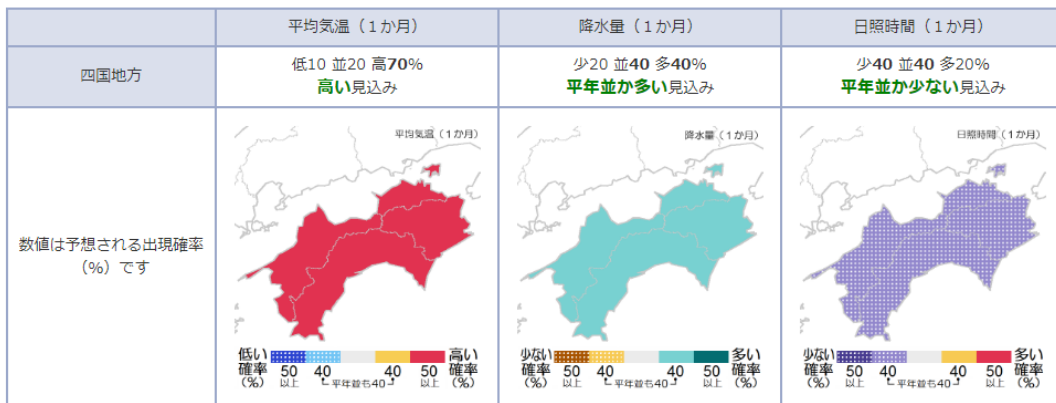


気象予報（1か月）

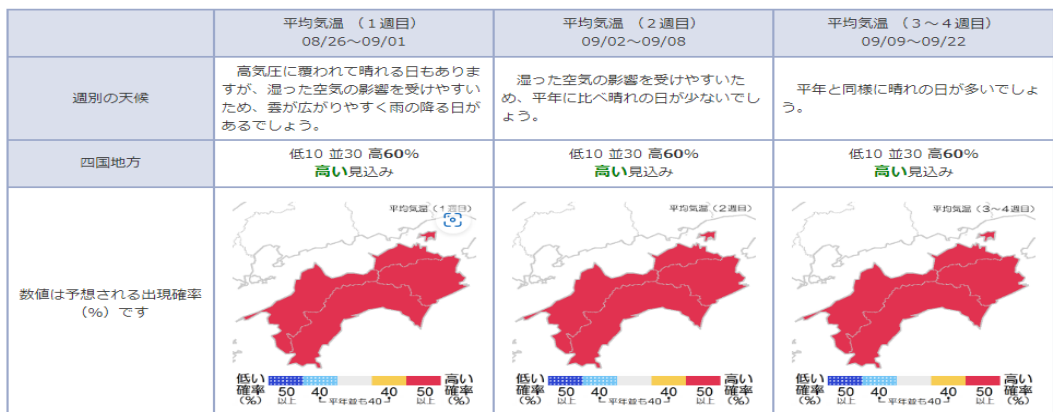
暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高い

特に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込み。

1か月の平均気温・降水量・日照時間



週別の平均気温と天候



水管理について（参考）

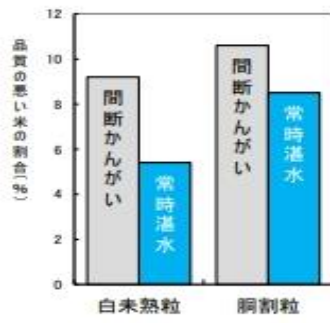


図1 出穂前後の水管理と白未熟粒、胴割粒との関係
(滋賀農振セ 2006年「コシカリ」)

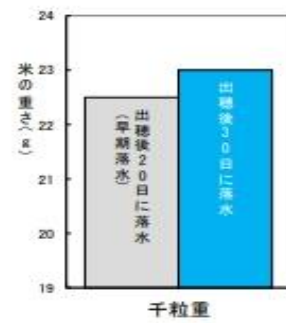
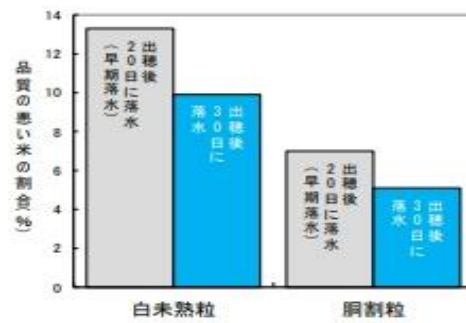


図2 落水時期と白未熟粒、胴割粒、千粒重(米の重さ)の関係
(滋賀農試湖北分場2004年「コシカリ」)



出穂前後の常時湛水で
白未熟粒、胴割粒が減ります



収穫直前まで入水すると、白未熟粒、
胴割粒が減り、収量も増加します